

小児科開業30年と 古希を迎えて思うこと

余市医師会
ながい小児科医院

永井文作

故郷の余市町に39歳で開業してから、12月3日で丸30年を迎えようとしている。今日まで無事やってこられたのは、多くの諸先輩、同僚、地元の方々、そして余市医師会や小樽小児科部会の先生方のお陰で、改めて感謝を申し上げたい。

この30年の間に小児科医療は飛躍的に進歩し、外来診療の形態も少しずつ変わってきました。

一方少子化によるこどもの激減と診療報酬の低さや大学卒後の新人医師臨床研修制度などで、最近はや若い先生の小児科医志望が全国的に少ないとのこと。私の卒業した昭和47年ごろは毎年10名くらい小児科に入局していました。さらには産科医の不足も深刻で、後志では分娩のできる施設が小樽市に1カ所、倶知安町に1カ所しかなく、周産期医療の危機的な状況にあります。将来の出産不安から、若者の都市部への流出誘因にもなりかねません。

最近の自分は体力・気力・知力の三拍子揃って衰え、学会や講演会等の出席もままならず、専門医の更新の単位も不足の事態になりました。今後は持病と付き合いながらの開業生活になりそうです。

最近嬉しいことに、NHKの朝ドラ「マッサン」の放送で余市町は全国的に脚光を浴び、国内外から多くの観光客がニッカウヰスキーの工場見学に訪れています。私自身改めて竹鶴政孝・リタ夫妻の壮絶な人生と偉大さ、ウヰスキーの奥深さ、余市町の自然のめぐみの豊かさを認識しました。

今年は余市高等学校第17期生の卒業50周年にあたり、古希のお祝いもかねて、8月6日にニッカウヰスキーの工場内の会館で同期会をすることになりました。朝ドラ「マッサン」にも出演した、余市パイピングソサエティのバッグパイプの音色がどこからとなく聞こえて来そうな琥珀色の宴を、今から楽しみにしております。

十勝医師会における 診療録ネットワークを始めました。

十勝医師会
医)翔嶺館 十勝の杜病院

大槻浩之

十勝医師会における診療録ネットワーク（TOMANET）は、当初高齢者救急における診療情報の共有供覧できるネットワークを柱として発足しました。診療情報を患者IDで結びつけ、診療情報の保存、診療データの保全・共有供覧できるシステムです。

基本システムの運用は可搬デバイス（iPad）を使用しますが、もちろんパソコンでも可能です。セキュリティはネットワークにおける情報通信をVPN閉域網で運用し、各患者さんに説明をし、了承を得た方にTOMANET CARD IDを発行し、本人に渡し、診療情報は個人を特定できる情報は消して、血液データ、画像データ等を保存しておき、IDが分からなければ誰の情報か分からないようにしております。

われわれ十勝医師会の圏域は各市町村の医療機関も医師も広範囲に分散しており、各基幹病院とかかりつけ医との連携が不可欠なのです。

一方昨年来、医療介護総合確保推進法などが告示され、今後ますます他職種との連携が重視されるようになり、当システムも医療機関のみならず、歯科医院・調剤薬局・訪問リハビリステーション・訪問看護ステーション等にも門戸を開放し、地域密着型の日常の療養支援・在宅支援にも活用できるようにしました。

これはもちろん、利用にあたって利用規約を守っていただき、個人情報の重要性を十分に認識し、その保護を徹底するため、個人情報の取得・保存・利用・処分等に当たり、各個人が個人情報保護に関する法令・ガイドラインを遵守することが前提であるとともに、目的以外の利用や漏洩が行われないように安全管理体制に細心の注意を払い、継続的に見直し、向上に努めなければならないと思っています。今はまだ手探りの段階ですが、今後介護関係との連携や、近隣の他のネットワークとの密な連携を図り、より役に立つネットワーク作りに心がけたいとも思っています。かかりつけ医と救急医療を担う各地域の基幹病院とを結ぶネットワークのほか、日常の療養支援・在宅支援の一助となれば幸いです。